

第29回国民文化祭・あきた2014・ 秋田県南の歴史と湯煙探訪ツアー 報告

2014年10月17日

記) 加賀谷健治(S36E)

一部加筆 三平俊悦

首都圏応援団有志が秋田で開催された「国民文化祭応援ツアー」に参加しましたので、報告致します。
現地で入手したパンフレットなどで解説も記載しましたので、ご笑覧頂ければ幸いです。

1. 国民文化祭

1) 国民文化祭開会式

平成26年10月4日(土) 14:30から秋田県立武道館にて国民文化祭開会式が、皇太子殿下ご臨席のもと盛大に行われました。

参加者は、各団体・「首都圏県人会連合会・わか杉会・秋高連・けやき会・男鹿の会・秋田ふるさと応援団・東京ふるさと館(S37C)文化会議」の皆さん総勢202名です。

オープニングフェスティバルでは「発見×想像もうひとつの秋田」のテーマで、秋田の自然・文化・伝統芸能を現代の音楽と融合させた演奏が行われました。演奏にあわせ秋田の先人たちが紹介されました。合唱とブラスのための「大いなる秋田」では総勢600人による壮大な演奏が繰り広げられ会場を圧倒しました。

エピローグでは「竿燈〜和太鼓」「あや子のお国自慢だよ」が演じられ、最後に、若者による「僕たちの未来」の演奏ででお開きとなりました。

夢のある壮大な演技の数々は感動的な内容でした。なお、国民文化祭開会式の詳細は東京秋工会ホームページ内に掲載されている「2014.10.10 なまはげ通信(船木政秋・S44K)」を参照願います。

2) 「国民文化祭応援ツアー交流・懇親会」

イヤタカで19:30から堀井秋田県副知事を始め総勢136名の出席で盛大に開催されました。

関係者挨拶・乾杯の後、次々とアトラクションが演じられ楽しいひと時を過ごしました。



司会は三平俊悦東京秋工会会長と川崎郁子さん



高久浩二秋田県人會會長・ツアー代表挨拶



堀井啓一秋田県副知事・挨拶



西木正明国民文化祭総合プロデューサー・挨拶



岸本六蔵秋高連會長・乾杯の挨拶



工藤雄一ラジオ歌謡研究会會長・「雄物川、あざみの歌」を斉唱



土崎港ガツキ町舞踊会
はまの祭り歌を披露



三浦央大典君（全国童謡コンクール
金賞受賞者）・「椰子の実」を斉唱



奥州会の皆さんによる民謡



奥州会の皆さんによる民謡



歌手順弘子さん演歌・ご当地ソング熱唱



秋田ふるさと応援団
フレーフレー秋田！！



声楽の上山先生の指揮で「ふるさと」を全員で合唱
♪うさぎおいし・・・♪

2. 秋田県南の歴史と湯けむり探訪ツアー

10月5日（日）～6日（月）の2日間、秋高連・主催の「秋田県南歴史と湯けむり探訪ツアー」に参加しました。

参加者は、秋高連・秋田ふるさと応援団総勢 27 名。高校別に秋田工業関係者 10 名・角館高校 4 名・横手高校 4 名・秋田北高校関係者 3 名・秋田商業 1 名・秋田高校 1 名・秋田中央高校 1 名・秋田南高校 1 名・湯沢高校 1 名・雄物川高校 1 名。

探訪箇所は盛りだくさんで、駆け足旅行になりましたが、秋田の歴史・文化・自然の奥深さを改めて認識しました。再び訪れたい所ばかりでしたので、見学した場所の概要をご紹介します。

秋田を離れてから久しい方におかれましては、ふるさと秋田を訪ね秋田の自然・文化・伝統芸能を体感してみたいかがでしょうか。

1) 旧池田氏庭園

大曲駅から東約2.5 Kmの田園地帯に、明治中期から戦前まで、山形県の本間氏、宮城県の斎藤氏と並ぶ大地主だった池田氏の4万2千㎡の広大な「旧池田氏庭園が」あります。

「旧池田氏庭園」は、大型灯籠や池・洋館等を配した主庭園の景観と、近代公園の先駆者である長岡安平が築庭した庭園として、鑑賞上・学術上の価値が極めて高いと評価され、平成16年秋田県では庭園として初めて国の名勝に指定されました。

今は、池田家から大仙市に寄贈され公園として一般公開され、引き続き整備が進められております。



旧池田庭園正門前での集合写真



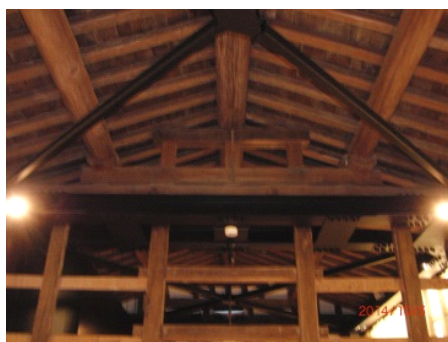
高さと笠の径が4 mの日本最大級の雪見灯籠



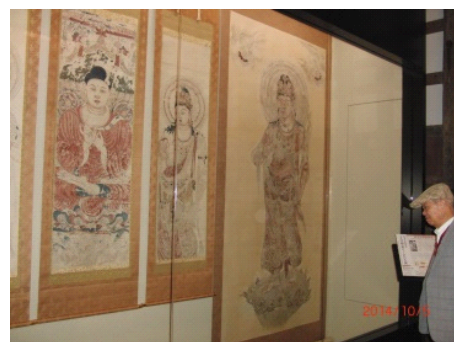
秋田県初の鉄筋コンクリート造りの洋館（図書館跡）



庭園の借景には鳥海山



巨大な石造りの米蔵内部



石造りの米蔵に「法隆寺の壁画」の模写絵が展示

2) 弘田柵跡（ほったのさくあと）

大仙市横手盆地の北部に位置する弘田柵は、秋田県の南部が一望できる丘を持つ東北最大級の柵で、歴史ロマンあふれる史跡です。

大和朝廷は奈良時代から平安時代の律令国家時代に「城」や「柵」という郡役所を作って、当時十分に朝廷に従わなかった「蝦夷（えみし）」と呼ばれる人が住んでいた東北地方を治めようとしてしました。

弘田柵は、発掘された木材の年輪調査から今から1200年前、坂上田村麻呂が胆沢城を築いた頃と同時期に築かれたと確認され、昭和6年「国の史跡」（秋田県第1号）に指定されました。

歴史書には秋田県内には「秋田城」「雄勝城」「由利柵」が登場しますが、弘田柵がどの城柵に当たるのかは不明だそうです。

※「城」は石垣や土塁で囲まれた城柵で、「柵」は材木堀で囲まれた城柵のことです。



外柵南門・柵列（復元）・正面玄関の門は柱の直径60cmの八脚門



政庁東方建物群（復元）



丘頂上からは、横手盆地360度見渡せる

3) 六郷湧水群

美郷町六郷は湧水群で有名です。奥羽山脈の扇状地に位置するため、地下水が湧き出す湧水が町内126箇所もあり、生活用水にも使用されております。

環境庁の名水100選に認定され、湧水を使ったニテコサイダーが有名です。



御台所清水・鷹狩りに来た佐竹の殿様が料理用に使用した



キャペコ清水・御本尊ご開帳



ニテコ清水・ニテコサイダーの水。明治天皇御巡行時に飲用された。

4) 後三年合戦金沢の柵（平泉の源流・秋田佐竹氏因縁の合戦）

横手市と美郷町にまたがって位置する「金沢の柵」一带は1087年に源義家・清原清衡（後の藤原清衡）が軍と清原家衡・清原武衡軍が死力を尽くし凄惨な戦いを展開した「後三年合戦」の古戦場跡です。

「後三年合戦」は異父兄弟間の領地争いで、これに陸奥の国守として赴任した源義家が清原清衡側に加勢しました。しかし源義家側が苦境に陥入り、これを知った弟の源義光は官職を投げ打って京都から駆けつけ副將軍として活躍し「源義家・清原清衡」側が勝利することができました。

清原清衡はこの勝利で奥羽一体を支配し、姓を亡き実父の「藤原」に戻し、本拠地を平泉に移しました。その後、清衡は戦乱で亡くなった霊を弔うために中尊寺を建立し、平泉文化の基礎を築きました。

一方、源義光は常陸の守に任ぜられ佐竹郷を領して勢力を伸ばし、孫の正義の時代に佐竹氏を名乗るようになりました。下って1602年関ヶ原の戦いで中立を保っていた佐竹義宣は、戦いの後、出羽の国秋田に転付となりました。また、常陸時代の分家佐竹北家も秋田に転封され角館に配されました。その佐竹北家の末裔が現在の秋田県知事佐竹敬久（のりひさ）です。このように後三年合戦は、今の秋田にも因縁深い出来事でした。



敵側の千住が義家の不忠・不義を非難して口戦。千住は敗戦後舌を抜かれて木に吊るされました。



千住の非難を聞いている義家・清衡軍



清原清衡のブロンズ像



雁の橋での集合写真



義家が雁の列の乱を察知し難を逃れた西沼



西沼にかけられた雁の橋

5) 民謡・民舞の祭典見学

秋田ふるさと村ドーム劇場では国民文化祭「民謡・民舞の祭典」が開催されておりました。秋田の民謡のほか全国の民謡・民舞が披露されており、素晴らしい演技を堪能しました。



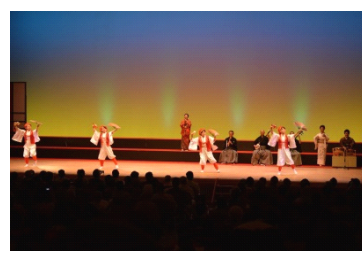
沖縄県・琉球踊り



愛媛県・たぬき踊り



岩手県・南部馬子踊り



秋田県浅野梅若会・大黒舞

6) 後三年合戦絵詞

ふるさと村近代美術館では、「後三年合戦」の顛末が描かれた「後三年合戦絵詞」が展示されておりました。この絵詞は先に視察したレリーフの原本です。

「後三年合戦」の歴史的価値を認識し、絵詞の表現方法は、現在の「ストーリー漫画」の原点と思いました。

7) あいのの温泉鶴が池荘



10月6日（月）朝鶴ヶ池荘出発前の集合写真

10月5日（日）夕刻「あいのの温泉鶴が池荘」に到着しました。

入口には、「歓迎 あきたふるさと応援団」の大看板が立てられており、感激しました。

全員温泉に浸かった後は、大広間で懇親会を行いました。

秋田の料理とお酒を堪能し、音楽の上山先生夫妻の指導でカラオケを唄い盛り上がりました。

8) 横手市長表敬訪問

10月6日(月)一行は横手市役所に高橋大(38歳)横手市長を表敬訪問しました。
若くて元気な市長で、今後の横手市の発展を予感しました。



高橋大横手市長を囲んで記念写真

9) 十文字道の駅

「十文字道の駅」は取扱高日本一を記録した道の駅です。バスで到着するや、「道の駅の歌」の合唱で出迎えを受け、店員の顧客サービスにかける熱意には驚きました。



道の駅の宣伝の歌



店長がリードして歌いだしました



店員とお客さんを巻き込んで合唱

10) 増田漫画美術館



「釣りきち三平」の緞帳前で集合写真

「増田漫画美術館」は「釣りきち三平」の作者・矢口高雄氏の出身地増田町にある美術館です。

国民文化祭のため「アジア国際マンガ展」が開催されておりました。

中国、香港、韓国、マレーシア、台湾そして日本のマンガが展示されており、アジア各国に日本の漫画が影響を与えていることを実感しました。

1 1) 横手市増田地区 旧石田理吉家・酒造元日の丸醸造

横手市増田地区は、明治期には生糸・葉タバコの流通拠点として発展し、大正期には近くの吉野鉾山で黒鉾・黄銅鉾・黄鉄鉾が発見され、鉾山に従事する人が9千人を超え最盛期を迎えました。

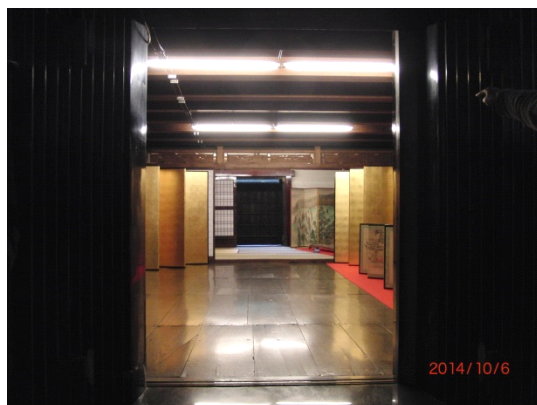
中七日町通りは、明治以降の経済成長期を中心に建築された伝統的建造物が立ち並ぶエリアで、平成25年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されました。北都銀行（旧羽後銀行）の創業の地でもあります。ちなみに漫画作家矢口高雄氏は30歳まで羽後銀行に勤務しておりました。

中七日町通りに建つ「旧石田理吉家」は戦前までは醸造業を営み、戦後は病院を開業しそして平成23年に土地・建物が市に寄贈されました。木造3階建ては希で現在市指定文化財に指定されております。内部を見学して豪華さに建築時の当主の隆盛を伺い知ることができました。この度の国民文化祭のために秋田に行幸された皇太子殿下が「旧石田理吉家」の座敷でお茶を嗜まれたそうです。

同じく中七日町通りの「日の丸醸造は」「まんさくの花」の醸造元で、ヨーグルト酒などの新しい酒作りに挑戦していました。ここで一行は、内蔵を見学し、お酒を試飲してお土産を購入しました。



木造3階建ての
旧石田理吉家



旧石田理吉家内蔵内部

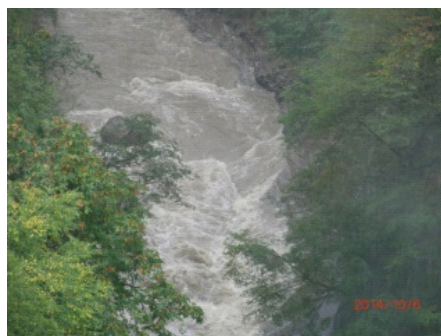


酒造元日の丸醸造

1 2) 小安峡



小安峡は大峡谷の湯煙と紅葉が有名



断崖の裂け目から白い湯煙が噴出

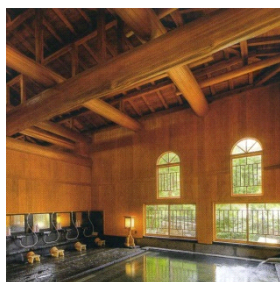
子安峡は栗駒山系が源流の皆瀬川が長年にわたって侵食した深さ約60m大峡谷です。峡谷と断崖の裂け目からの大噴湯の白煙とおりなす紅葉で有名な所です。

あいにく、紅葉には早かったのですがバスの中から、断崖からの湯煙が見えました。

1 3) 多郎兵衛旅館



多郎兵衛旅館



多郎兵衛旅館大浴場

一行は、小安峡温泉の多郎兵衛旅館で昼食と休憩をとりました。

昼食後、木造の巨大な梁と高い天井の大浴場でゆったりと山々を眺めながら温泉に浸かり、旅の疲れを洗い落としました。

1 4) 味噌醤油の「石孫商店」

湯沢市岩崎にある「石孫商店」は、安政2年（1855年）創業、国の登録有形文化財に指定されております。この蔵の中で伝統の製法で、こだわりの味噌・醤油を作っておりました。



石蔵内醸造所



醤油の原料小麦を炒るボイラ



醤油の圧搾器

15) 西馬音内盆踊り会館

西馬音内盆踊りは、阿波踊り、郡上踊りと並ぶ日本三大盆踊りの一つです。

羽後町にある「西馬音内盆踊り会館」には資料室と舞台があり、舞台上、西馬音内盆踊りを実演して頂きました。しなやかな手振りと足運の流れるような身のこなしが魅惑的で、鳥追い笠や黒の頭巾で顔を隠した踊り手の姿は神秘的な優雅さを感じました。



資料室



西馬音内盆踊り実演



舞台前での踊り手さんと集合写真

2日間で15箇所を巡り、最終地湯沢駅には17:00に到着し現地解散となりました。

帰京組は、奥羽線で新庄まで行き18:43新庄駅発の山形新幹線つばさ158で東京に向かいました。新幹線内は乗客が少なく車両は貸切り状態で、車内で集合し反省会を盛大に行ないました。

自宅到着は23時30分過ぎで、古希を過ぎた身にとっては少し慌ただしいツアーでした。

おわり